

都市再生整備計画 事後評価シート

三条市中心市街地地区(第二期)

令和8年3月

新潟県三条市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	三条市		地区名	三条市中心市街地地区(第二期)			面積	501.1			
交付期間	令和2年度～令和5年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	3,854.7百万円		国費率	0.49				
1)事業の実施状況	事業名													
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設、誘導施設(教育文化施設)											
		提案事業												
	当初計画から削除した事業	基幹事業												
		提案事業												
新たに追加した事業	基幹事業													
	提案事業	中央公民館のリニューアル 歴史民俗産業資料館別館	歩くことに適した町並みの残る中心市街地の地点的な機能の再生を通じた町の魅力づくりを進める上での1つの施設として、6人の名誉市民の功績を顕彰する整備するため。 また、貸館利用者の待合室的に利用されているロビーを有効活用し、まちなかのにぎわい創出を図るとともに、生涯学習活動の裾野を広げることから、中央公民館のロビーを改修するため。					歴史民俗産業資料館別館の年間利用者数として、15,000人を想定していることから、「計画区域内の文化・交流利用者数」の指標に15,000人を加える。						
交付期間の変更	当初	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響												
2)都市再生整備計画に記載した指標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	まちなかの1日当たりの平均歩行者数	人	915	R1	1,079	R5	モニタリング	評価値	2,820	○	あり なし	三条市立図書館まちやまや全天候型広場ステージなどがわの整備、歴史民俗産業資料館のリニューアル等により、まちなかを回遊する環境を整備され歩行者数が増加した。	—
	指標2	計画区域内の文化・交流利用者数	人	239,736	R1	288,249	R5			585,586	○	あり なし	三条市立図書館まちやまが大きな集客力を持つ施設となり、交流人口が増加した。	—
	指標3	新通川・島田川沿線における人口	人	6,083	R1	6,083	R5			5,612	△	あり なし	南四町地内、南新保地内における排水路整備、また西本成寺地内水対策による浸水被害の軽減が図られた。	—
	指標4	—										あり なし		
	指標5	—										あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	—												
	その他の数値指標2	—												
	その他の数値指標3	—												
	その他の数値指標4	—												
4)定性的な効果発現状況	—													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	降雨時における浸水状況の確認		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き、降雨状況に応じた浸水状況の確認を行う。						
	住民参加プロセス	まちなかの公共空間のデザインや公共施設の運用、運営、活用のあり方を考える会議(まちなかのにぎわい創出円卓会議)を、平成30年10月～令和4年6月の6回にわたり開催した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き、整備した公共施設における情報発信や賑わいを生み出す仕掛けなどに取り組んでいく。						
	持続的なまちづくり体制の構築	—		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—						

様式2-2 地区の概要

三条市中心市街地地区(第二期)(新潟県三条市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
・にぎわいの場の再生～スマートウェルネス三条やそれに付随した全天候型広場施設や地域交流センター、図書館等を拠点としたにぎわいの再生～ ・防災・減災のまちづくり～住民の安心・安全な暮らしへの更なる追求～	まちなかの1日当たりの平均歩行者数	単位:人	915	R1	1,079	R5	2,820	R5
	計画区域内の文化・交流利用者数	単位:人	239,736	R1	288,249	R5	585,586	R5
	新通川・島田川沿川における人口	単位:人	6,083	R1	6,083	R5	5,612	R5
		単位:						
		単位:						
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 60%;"> </div> <div style="width: 35%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・計画区域 ・・・都市機能誘導区域 ・・・居住誘導区域 </div> </div>								
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ○更なるにぎわいの創出 <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地は高齢化率が高く、空洞化が進んでいるため、核となる公共施設の整備とあわせて、出掛けたくなるような魅力がまちのあちこちに備わっていることと併せ、外出を容易にし、歩きやすい環境を整えることが必要である。 ・図書館、鍛冶ミュージアム(図書館等複合型施設)を整備することに併せ、周辺施設の機能を見直し、回遊性を高める取組を行う必要がある。 ○災害に強い安全、安心な生活環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道雨水整備などの進捗が遅れており、近年頻発する豪雨により、安心して暮らし続けられる居住環境に至っておらず、緊急的な浸水被害の軽減が求められている。 							
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ○更なるにぎわいの創出 <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の魅力向上、にぎわい創出のためのコンテンツの拡充と磨き上げ、民間活力の導入、歩いて回遊する環境づくりのそれぞれの取組について、「にぎわいを生み出す種まき」は実施してきたことから、これを継続していくことが重要である。 ・まちなかで活躍する人材育成及び人材活用の継続や市民へのまちなかのコンセプトの意識啓発などについて引き続き検討、実施していく必要がある。(まちなかのにぎわい創出円卓会議での総括より) ○災害に強い安全、安心な生活環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・本計画で取り組んだ新通川沿線の排水路整備は新水被害の低減に寄与したと考えられる。今後、引き続き新通川沿線の排水路整備の後、島田川沿線の排水路整備に取り組む。 							

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()	—	—			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	—								
公園	—								
河川	—								
下水道	—								
駐車場有効利用システム	—								
地域生活基盤施設	南四日町地内排水路	547.2	L=2,347m	614.5	L=2,347m	・地下埋設管移設補償費の増額	当初計画していた事業量を実施するために必要な事業費の増額であるため、指標への影響はない。	●	
高質空間形成施設	—								
高次都市施設	—								
誘導施設(教育文化施設)	図書館	1,719.4	A=2,848㎡	1,866.0	A=2,848㎡	価格高騰等による増額	当初計画した事業の実施に必要な事業費の増額であるため、指標への影響はない。	●	
誘導施設(教育文化施設)	鍛冶ミュージアム	825.2	A=1,310㎡	1,040.2	A=1,310㎡	価格高騰等による増額	当初計画した事業の実施に必要な事業費の増額であるため、指標への影響はない。	●	
既存建造物活用事業	—								
都市再生交通拠点整備事業	—								
土地区画整理事業(都市再生)	—								
住宅市街地総合整備事業	—								

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業	—								
バリアフリー環境整備事業	—								
優良建築物等整備事業	—								
住宅市街地総合整備事業	—								
街なみ環境整備事業	—								
住宅地区改良事業等	—								
都心共同住宅供給事業	—								
公営住宅等整備	—								
都市再生住宅等整備	—								
防災街区整備事業	—								

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		目標年度						あり	なし
指標1	まちなかの1日当たりの平均歩行者数	人	中心市街地を構成する5つの商店街と全天候型広場前の1日の平均歩行者数を計測する。			915	R1	1,079	R5	モニタリング	—	モニタリング		
										事後評価	見込み	2,820	事後評価	○
指標2	計画区域内の文化・交流施設利用者数	人	地域交流センター、中央公民館、嵐南公民館、三条東公民館の利用者数を集計する。			239,736	R1	288,249	R5	モニタリング	—	モニタリング		
										事後評価	見込み	585,586	事後評価	○
指標3	新通川・島田川沿線における人口	人	島田川・新通川沿線排水路の流域にかかる行政区の人口を集計する。			6,083	R1	6,083	R5	モニタリング	—	モニタリング		
										事後評価	見込み	5,612	事後評価	△
指標4	—									モニタリング		モニタリング		
										事後評価	見込み		事後評価	
指標5	—									モニタリング		モニタリング		
										事後評価	見込み		事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	まちなかの1日当たりの平均歩行者数を確認した結果、目標値を上回り達成していたため。	
指標2	計画区域内の文化・交流利用者数を確認した結果、目標値を上回り達成していたため。	
指標3	島田川・新通川沿線排水路の流域にかかる行政区の人口を集計した結果、目標値は下回ったが、南四日町地内、南新保地内における排水路整備、また西本成寺地内内水対策による浸水被害の軽減が図られたため。	新通川・島田川沿線地域における人口減は、社会全体としての人口減が背景にあり、公共下水道雨水整備などの進捗の遅れにのみ起因するとは言えず、当初指標の設定段階で適当かどうか配慮が必要だった。
指標4	—	
指標5	—	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度				
その他の 数値指標1	-						モニタリング		
							事後評価	確定 見込み	
その他の 数値指標2	-						モニタリング		
							事後評価	確定 見込み	
その他の 数値指標3	-						モニタリング		
							事後評価	確定 見込み	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・南四日町地内排水路整備により、整備箇所周辺地域における豪雨時の浸水被害報告が少なくなった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちなかのにぎわい創出円卓会議	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> ● まちなかの公共空間のデザインや公共施設の運用、運営、活用のあり方等を考える会議を、平成30年10月～令和4年6月の6回にわたり開催し、総括として次の結論を得た。 公共施設の魅力向上については、図書館等複合施設に必要な機能等を検討し、三条市立図書館まちやまの開館に結び付けたほか、歴史民俗産業資料館について、三条市の歴史・文化のアーカイブを担う基幹施設を整備した同館別館ほまれあをオープンすることができた。 にぎわい創出のためのコンテンツの拡充と磨き上げについては、外部人材を活用して空き家の改修を積極的に行い、改修した空き家を活用した出店に繋げるなど民間活力を導入することができている。 歩いて回遊する環境づくりについては、環境整備に加え、まちやまの指定管理者による様々なイベント等により賑わいを創出することができている。 	総括として、左記結論を報告しており、引き続き整備した公共施設における情報発信や賑わいを生み出す仕掛けなどに取り組んでいく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
—	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
—	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織	市民部 生涯学習課 建設部 建設課、上下水道課	令和7年12月	建設部 建設課(社会資本整備総合交付金主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1		指標2		指標3		指標〇	
指標名		まちなかの1日当たりの平均歩行者数		計画区域内の文化・交流施設利用者数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	図書館	◎	三條市立図書館(まちやま)が開館後、年間約50万人を集客する施設となり、本エリアの集客を担っているほか、ステージえんがわのイベントや歴史民俗産業史料館別館(ほまれあ)における企画展の開催により、まちやまを軸にした周辺の回遊に繋がっているものと評価している。	◎	令和3年の中央公民館ロビーリニューアル、令和4年7月のまちやまオープン、令和6年7月の歴史民俗産業史料館別館(ほまれあ)がオープンした。これにより、まちやまは年間約50万人、ほまれあは年間約1万5千人の来館者数となっているほか、まちやま及び中央公民館は、連日、学習スペースを利用する学生が訪れるなど、施設が集中する当エリアのにぎわい創出の一翼を担っているものと評価している。				
	鍛冶ミュージアム	◎							
	南四日町地内排水路	—							
提案事業	中央公民館のリニューアル	◎		◎					
	歴史民俗資料館別館	◎							
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	歩行者の多くは、指標2の文化・交流施設の利用者数に含まれると見込まれることから、今後は、上記施設の利用者数に指標を統一し、施策の効果を引き続き確認していく。	引き続き、これらの施設の利用状況の推移を注視し、施策の効果を確認していく。		
-------	--	---------------------------------------	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3			指標〇		指標〇		指標〇				
指標名		新通川・島田川沿線における人口											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	図書館	—	南四日町地内、南新保地内における排水路整備、また西本成寺地内内水対策による浸水被害の軽減が図られたことにより、地域住民の定住が期待される。	分類Ⅲ									
	鍛冶ミュージアム	—											
	南四日町地内排水路	—											
提案事業	中央公民館のリニューアル	—											
	歴史民俗資料館別館	—											
関連事業		—											

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	事業効果を検証し、更なる整備の必要性を検討する。			
------------------	--------------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織	市民部 生涯学習課 建設部 建設課、上下水道課	令和7年12月	建設部 建設課(社会資本整備総合交付金主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
<p>○更なる賑わいの創出 中心市街地の核となる公共施設の整備や、市民の誰もが生涯にわたり健康で幸せに暮らし続けるため、出掛けたくなくなるような魅力がまちの至るところに備わっていることと併せ、外出を容易にし、歩きやすい環境を整えることが必要である。</p>	<p>にぎわいを創出するための柱の一つである教養・教育活動及び交流活動の促進を担う拠点施設(図書館、鍛冶ミュージアム)の整備、加えて歴史民俗産業史料館別館(ほまれあ)の整備や中央公民館ロビーのリニューアルなどにより、文化・交流施設の利用者数を大幅に伸ばし、回遊性を高めることができた。</p>	<p>引き続き、利用者を維持できるよう様々なイベント、企画展などのコンテンツの整備を図りながら、利用状況の推移を見ていく必要がある。</p>	<p>まちやまの整備に併せて、施設の老朽化が進む中央公民館の複合化を検討する予定でいたが、実現できなかったことから、同館の在り方を検討していくことが今後の課題である。</p>
<p>○災害に強い安全、安心な生活環境整備 公共下水道雨水整備などの進捗が遅れており、近年頻発する豪雨により、安心して暮らし続けられる居住環境に至っておらず、緊急的な浸水被害の軽減が求められている。</p>	<p>南四日町地内排水路整備を始めとした各種内水氾濫対策に取り組み、豪雨時の浸水想定区域を軽減することができている。</p>	—	—

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	まちなかの持続的にぎわいの創出	まちなかを訪れ、各種施設を利用し、回遊することで交流、賑わいを生み出していく。そのために、施設の指定管理者等との連携により、様々なイベントや仕掛けを作り出していくことに取り組む。	文化・交流施設の運営事業
	浸水想定箇所の継続的なモニタリング	浸水時における迅速な通行止めや迂回路の確保等について状況を見極め、判断する必要がある。	都市施設の継続的な維持管理業務

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	まちなかの持続的にぎわいの創出	文化・交流拠点施設の一角を担う中央公民館の在り方について、将来を見据え、一定の方向性を見出す。	左記検討に係る審議会(社会教育委員会議及び公民館運営審議会、文化芸術振興に関する懇談会)における検討。

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	まちなかの1日当たりの平均歩行者数	人	915	R1	1,079	R5	確定 見込み	○ ○	2,820	○	あり なし			
指標2	計画区域内の文化・交流利用者数	人	239,736	R1	288,249	R5	確定 見込み	○ ○	585,586	○	あり なし			
指標3	新通川・島田川沿線における人口	人	6,083	R1	6,083	R5	確定 見込み	○ ○	5,612	△	あり なし			
指標4	—						確定 見込み				あり なし			
指標5	—						確定 見込み				あり なし			
その他の数値指標1	—			H			確定 見込み							
その他の数値指標2	—			H			確定 見込み							
その他の数値指標3	—			H			確定 見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	指標1、2については定量的な分析を行うことができた。	まちなかの平均歩行者数について、歩行者の多くは、文化・交流施設の利用者数に含まれると見込まれることから、今後は、上記施設の利用者数に指標を統一し、施策の効果を引き続き確認していく。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		今後、社会情勢の変化に捉われにくい指標単位を設定することが望ましい。
	うまくいかなかった点	新通川・島田川沿線地域における指標設定については、公共下水道雨水整備などの進捗の遅れによる起因とは断言できず、昨今社会全体の問題として捉えられる事象であり、当初指標の設定として適当かどうか配慮が必要だった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点		

添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業の活用予定
現時点ではなし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページを通してインターネット上で評価結果を公表し、意見収集を行う。	令和8年3月3日～3月16日	令和8年3月3日～3月16日	担当課への郵送、FAX、Eメール、持参	建設課
広報掲載・回覧・個別配布	—				
説明会・ワークショップ	—				
その他	建設課供覧	令和8年3月3日～3月16日	令和8年3月3日～3月16日		

住民の意見	0件				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	新潟県三条地域振興局地域整備部計画調整担当 計画専門員 中浜 孝昭	令和8年3月3日 (書面開催)	建設課(社会資本整備 総合交付金主管課)	三条市都市再生整備計画に係る実施事業事後 評価委員会要綱	独自に設置
その他の委員	三条市自治会長協議会会長 浅間 正直 三条市社会教育委員兼公民館運営審議会委員 議長 佐藤 隆司 三条商工会議所産業観光委員会委員長 曾根 忠幸				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	—
	成果の評価	成果の評価について、適正と確認された。 水害対策については、浸水被害が軽減され効果が上がっていると思う。
	実施過程の評価	実施過程の評価について、適正と確認された。 ワークショップ、会議の開催など住民ニーズと整合性を図りながら、計画が進められていると思う。
	効果発現要因の整理	効果発現要因の整理について、適正と確認された。 交流拠点を活用したイベント開催などによってにぎわいが生まれていると思う。 施設環境が良好になったことは子育て支援に良い印象を与えていると思う。
	事後評価原案の公表の妥当性	特になし
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	特になし
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	今後の人口減問題を見据えた抜本的なまちづくりが必要。 交流拠点施設の機能が単発で収束しないよう施設間で連携してほしい。 まちやま、えんがわ周辺に散歩がてら足を運べられるような、また子どもたちが賑わえる場がほしい。 空き家を活用して中央公民館、まちやまの駐車場の確保を充実してほしい。 コンパクトなまちづくり、中心市街地の空き家、空地問題の活用の仕方が重要と考える。
	フォローアップ	特になし
	その他	各商店街が分散しているので、一つにまとめてにぎわいを創る必要がある。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	特になし
その他	新たな開発ではなく、既存インフラの整備に尽力していただきたい。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—		
—		

有識者の意見	—
--------	---